

平成29年度学校評価《自己評価書》

番号	「西門川中ならではの教育」の項目	評価項目	職員	生徒	保護者	地域住民	総合評価	取組状況等	考察及び改善策	
知	1	生徒授業満足度80%以上の実現	一人一人に応じた学習指導や学習支援をしている。	3.0	3.4	3.4		3.3	<p>○ 「授業マニフェスト」は職員研修で共通理解を図り年間3回の研究授業の他に、略案を書いた校長及び授業が入っていない職員による参観授業を実施した。</p> <p>○ 教科を割り振ってのタトレ(15分間)とスキトレ(20分間)を行い、この時間に個別指導も行った。</p> <p>○ 家庭学習ノートの展示や良いノートの掲示、家庭学習オリエンテーションなどを行った。</p> <p>○ 門川「授業の5箇条」を推進するために、2学期より学習態度徹底週間を設定し、重点指導事項を決めて指導したり、生徒のアンケートをとったりした。</p>	<p>【分析・考察】</p> <p>○ 2.5を下回る項目はなく概ね良好な状況である。</p> <p>○ 家庭と連携した家庭学習の充実に関しては、家庭で実践できる具体的な取組事項の保護者への発信が不十分であったと考えられる。</p> <p><改善策></p> <p>○ タ(ゆう)トレやスキトレ、学力コンテストは今後も継続的・組織的に取り組み、個別指導も充実させる。</p> <p>○ 各種検定試験の受験を勧め、受検者全員の合格を目指して、個別指導を充実する。</p> <p>○ 町PTA協議会が町内の家庭学習の実態に合わせて設定する取組事項の共通理解と実践化を図る。</p>
	2	「かどがわ5段階授業モデル」を意識した授業の実践	授業のはじめに「学習課題やねらい」、終末の振り返りで「まとめ」を板書している。	2.9	3.4			3.2		
	3	授業づくりのマニフェストの実践	授業マニフェストの実践や学力向上プランに基づいた取組及び生徒による授業評価結果を生かして指導法を工夫・改善し、学力向上に努めている。	3.0	2.9	3.2		3.0		
	4	スキルトレーニングと学力コンテスト、タトレを通しての基礎学力の定着	学力コンテスト、タトレにより基礎的な力を育てている。	3.4	3.1	2.9		3.1		
	5	家庭と連携した家庭学習の充実	家庭と連携し、家庭学習の習慣化や内容の充実にも努めている。	2.6	2.9	3.1		2.9		
	6	指導力向上のための研究授業の実施	支援訪問の他に、指導案を作成し、授業を他の職員に公開している。	3.1	2.9	3.2		3.1		
	7	各種作品展・検定試験への挑戦	各種コンクール等への応募、英語検定、漢字検定の受験を奨励している。	3.4	2.8	3.2		3.1		
	8	門川「授業の5箇条」の推進	授業中「門川『授業の5箇条』」を意識しながら指導している。	3.3	3.1			3.2		
徳	9	キャリア教育の推進	行事や授業の際に「キャリア教育の視点」を意識しながら指導している。	3.1	3.3	3.5		3.3	<p>【取組状況等】</p> <p>○ キャリア教育週間を設け、勝蓮寺のご住職による講話を設定し、その後後に生き方や進路に関連する学級活動や道徳の授業を行ったり、立志式を行い将来の生き方を考える機会とするとともに、自衛隊の方の講話を実施したりした。</p> <p>○ 読書については、毎月「23が60運動」を実施したり、ボランティアによる読み聞かせを毎週していただいたりした。</p> <p>○ 学校間交流学習として、1学年生徒全員が門川中学校に行き、1校時から4校時まで一緒に授業を受けた。</p> <p>○ コミュニケーション能力育成事業として3年間の指定を受け、「ピア・サポート」に関する職員研修を行い、各学年で授業も数回行った。</p>	<p>【分析及び考察】</p> <p>○ 2.5を下回る項目はなく概ね良好な状況である。しかし、読書については他の項目に比べ低い。</p> <p>○ 毎月の読書量は昨年度よりも多くなったが、読書量の個人差も大きい。</p> <p>○ 門川中学校との学校間交流学習は実施前は生徒・保護者とも不安な点もあったが、当日はそれぞれ交流を図ることができた。</p> <p><改善策></p> <p>○ 読み聞かせを継続的に行うとともに、ノーマディアデーに合わせた家庭読書の充実を図る。</p> <p>○ 「23が60運動」を効果的に行うために、実施日を検討し、生徒や保護者が意識できるよう啓発していくとともに、「読書記録」も生徒の状況が職員が把握できるようにしていく。</p> <p>○ 「ピア・サポート」に関する研修や授業は継続し、出前授業も依頼する。</p> <p>○ 次年度の学校間交流学習は、門川中学校の他に、大王谷中学校との交流も行う。</p>
	10	立ち止まってあいさつ、立腰、基本的な生活習慣の確立(凡事徹底)	行事や授業のあいさつや返事、立腰など、基本的な生活習慣を意識しながら指導している。	3.1	2.9	3.0		3.0		
	11	読書活動の推進(朝読書、23が60読書活動)	朝読書、23が60読書活動を通して、読書を推進している。	3.1	1ヶ月平均 3.9冊 昨年度3.5	2.2		2.6		
	12	学校間交流学習	計画的に他校との連携や交流を図ろうとしている。	3.4	3.1			3.3		
	13	西門川「心を育てる5箇条」の推進	「西門川心を育てる5箇条」により生活の規範を意識付け、基本的な生活習慣が身に付くよう指導している。	3.0	2.8	3.0	3.3	3.0		
	14	ふるさと学習の推進	地域の人材を活かし、ふるさとを愛する心を育てている。	3.2	3.0	3.1	3.0	3.1		
	15	思いやりの心が育つ小中連携、体験学習	各種体験学習や小中合同行事等を通して、人権感覚や福祉の精神が身に付くよう指導している。	3.3	3.1	3.3		3.2		
	16	全教育活動における道徳教育の推進	道徳の時間だけではなく、行事などにおいても日常的に道徳的な視点で生徒の指導を行っている。	3.0	2.9			3.0		

	番号	「西門川中ならではの教育」の項目	評価項目	職員	生徒	保護者	地域住民	総合評価	取組状況等	考察及び改善策
体	17	体育的行事や体力向上週間等を通した体力向上	体育的行事や体力向上週間を活用し、生徒の運動能力と運動への意欲を高めている。	3.4	3.4	3.1		3.3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力向上週間を年間5回実施し、長距離走大会前には試走を行い、生徒に目標タイムを設定させ意欲を高めた。 ○ 地区秋季大会では柔道部が団体で優勝した。 ○ 水害を想定した避難訓練では保護者にも迎えを依頼し、家庭と連携して実施した。 ○ 栄養教諭を招いての食育の授業や、お弁当集会を行った(お弁当の日は3月9日に実施)。 ○ 性教育についての職員研修を夏季休業中に実施した。 	<p>【分析及び考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2.5を下回る項目はなく概ね良好な状況である。しかし、①「早起き 早寝 朝ごはん」、②「性教育の推進」職員の評価は2.7で他の項目に比べ低い。また朝食を毎日とっていない生徒も数名いる。 <p><改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体力向上週間については成果が見られた。次年度も改善をしつつ、継続して取り組んでいく。 ○ 家庭と連携し、生活チェックの指導の充実を図り、すべての生徒が毎日朝食をとることを目指す。 ○ PTAと連携したノーメディアデーの推進やメディア使用に関する家庭のルールづくりの推進を図る。 ○ 性教育の授業を学級担任が行いようにするために、今後も研修を充実させていく。
	18	自主的に取り組む部活動	部活動を奨励し、自主性を育てるように努めている。	3.0	2.9	3.2	3.7	3.2		
	19	「早起き 早寝 朝ごはん」運動	「早起き 早寝 朝ごはん」運動を推進し、健康に関する意識を高めている。	2.7	3.1	3.0		2.9		
	20	生活チェックでの心身・健康把握	生活チェックを通して、生徒に心身・健康の把握をさせている。	3.0	3.1	3.0		3.0		
	21	実践的な安全・防災教育	生徒が自分で自分の身を守ることができる安全・防災教育を推進している。	3.2	3.2	3.0		3.1		
	22	性教育の推進	発達段階に応じた性に関する知識や態度を身に付けさせている。	2.7	3.0			2.8		
保護者・地域との連携・融合	23	学級便り、学校便り、ホームページによる情報発信	学級便り、学校だよりを発行し、保護者、地域に対し情報発信に努めている。	3.5	3.6	3.5	3.7	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校ホームページの更新や月2回の学校便りの発行により、学校の情報を発信した。特にホームページは7月に閲覧数が10万人を突破し2月26日現在、17万5千人程度の閲覧数となっている。 ○ 「かどがわ4か条」は各家庭で掲示し、家庭訪問の際に確認した。 ○ 学級担任による家庭訪問や欠席の際の電話連絡、学級便りの発行など保護者との連携を積極的に図ろうとした。 ○ 運動会や文化祭の際には生徒がはがきを書いて案内したり、行事の講師を依頼したりして交流の機会を多くもった。 ○ 参観日や学校参観週間の他に、年間3回、「学校評議員会」と「西門川の教育を語る会」をそれぞれ実施して、開かれた学校づくりを進めた。 <p>【分析・考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 概ね良好な状況であるが、「かどがわ4か条」については、職員、生徒、保護者、いずれも2.6と他の項目に比べ低くなっている。 ○ 「西門川の教育を語る会」の内容の周知が不十分な状況である。 <p><改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「かどがわ4か条」について、学校では、生活チェックや読書記録などで生徒の実態を把握しながら各分掌部で具体的な取組を設定する。また家庭との連携については、PTA各専門部会、学級委員長と連携しながら、具体的な取組を設定する。 ○ 「西門川の教育を語る会」については、この会で説明する内容を学校評議員会、学級懇談会でも紹介することによって職員・保護者にこの会の趣旨の理解を深める。また、「西門川の教育を語る会」についても、意見を出しやすい実施形態を工夫していく。 	
	24	「かどがわ4か条」の実践推進	「かどがわ4か条」実践推進のために、保護者・生徒に積極的なはたらきかけをしている。	2.6	2.6	2.6		2.6		
	25	体験活動の充実～米作り体験、しめ縄作り	米作りやしめ縄づくりなど体験活動を充実させる。	3.2	3.0	3.1	3.0	3.1		
	26	ホテル再生プロジェクトの実施	ホテル推進プロジェクトをととして、ふるさとを大切に思う心を育てるよう指導している。	3.3	3.0	3.1	3.0	3.1		
	27	保護者との密な連絡・相談	保護者と密に連絡・相談を行い、情報交換、相互理解に努めている。	3.0		3.4		3.2		
	28	地域住民も参加する各行事	運動会、文化祭など、地域住民が参加する学校行事を設定し、地域住民が学校への関心を持つよう努めている。	3.3	3.5	3.3	3.5	3.4		
	29	学校経営に活かす地域の声	学校評価や参観週間などを通して保護者や地域住民の声を収集し学校経営に反映するよう努めている。	3.0		3.0	3.4	3.1		
	30	西門川の教育を語る会	西門川の教育を語る会を通して、地域住民の意見を収集し学校運営に反映するよう努めている。	2.8		2.2	3.1	2.7		